

■事例紹介

ふるさと^{みどり}水土里ふれあいの旅 2025 について

令和7年6月18日（水）に青森市の奥内土地改良区管内で「ふるさと水土里ふれあいの旅 2025」を開催しました。

この活動は青森北部、青森第二北部、奥内の3土地改良区が主催したもので、地元の小学生に頭首工やため池等の農業水利施設や水源林の役割を理解してもらうことを目的としています。



開催場所

はじめに、大堤ため池へ向かいました。

土地改良区理事から、ため池は農業用水を貯える働きがあることや、ため池で遊ぶのは危険だということの説明がありました。

また、東青農林水産事務所林業振興課から、「山は水を貯え、その水がゆっくりと流れることでダム役割を果たしている」という、水源林の説明もあり、参加者は真剣な表情で説明を受けていました。



大堤ため池での説明の様子

次に、ため池の水質調査と、ため池に生息する生き物観察を行いました。

水質調査では水温、透視度、pH、CODを測定しました。

生き物観察では、生き物先生こと工藤智さんが、ため池やその周辺で捕獲した水生生物について説明しました。参加児童は、生き物図鑑を確認しながら、工藤さんのお話を熱心に記録していました。普段はなかなか見られない生き物達に目を輝かせていました。



水質調査（大堤ため池）



生き物観察（大堤ため池）

大堤ため池を後にし、1号ポンプ場へ向かいました。

ここではポンプによってくみ上げられた地下水が地域内の水田へ流れ、稲作に利用されていることを教えてもらいました。



1号ポンプ場の見学の様子

その後は豊源頭首工へ移動し、頭首工の役割について説明を受ける中で、ゲート開閉の様子を見学しました。土地改良区職員がゲートを操作すると、川を堰止めているゲートが転倒し、水が勢いよく流れ出しました。参加児童からは「おおー！」と歓声が上がりました。



ゲートが転倒し、水が流れる様子

説明の後、大堤ため池と同様に豊源頭首工でも水質調査、生き物観察を行いました。生き物観察では、ニホントカゲなど大堤ため池とは異なる生物が見られました。



水質調査と生き物観察（豊源頭首工）

最後に、地区内の用水路でアヒルレースを行いました。アヒルレースとは、アヒルのおもちゃを約 900mの直線の水路に流し、順位を競いながら、水路にはどれくらいの速さで水が流れているかを学ぶ競技です。レースの途中で順位が入れ替わると、児童達は大興奮！大盛況のまま「ふれあいの旅 2025」は幕を閉じました。



アヒルレースの様子

終了後のアンケートでは、「アヒルレースが楽しかった」という感想が一番多く見られました。水源林の大切さや、田んぼの周りや水路には多様な生物を学ぶことができ、有意義なイベントとなりました。

（東青農林水産事務所では、令和7年度ふる水基金事業により、当日使用する生き物図鑑や水質検査キット、アヒル模型などの物品を支援しました。）